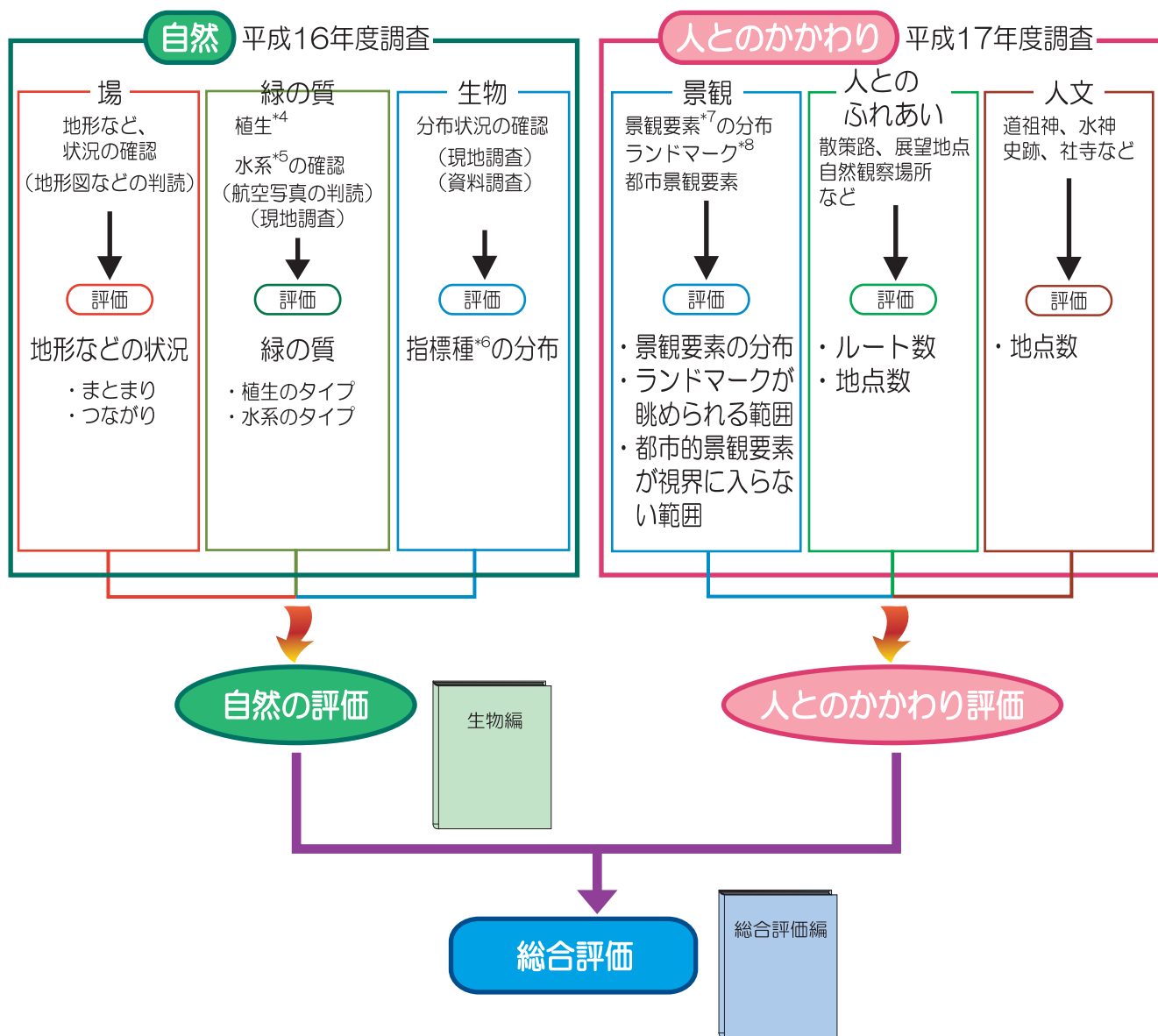


3. 総合評価の方針

3.1 総合評価の視点

西部丘陵地域は、市内でもっとも自然環境が豊かで、古くから人と自然が調和してきた地域です。総合評価は、自然環境と、人とのかかわりについての両面から、特に将来にわたって保全措置が必要な地区や、場所に合った保全対策を検討するための基礎資料とすることを狙いとしました。したがって、地域の中で高い評価を得られなかった地区であっても、それを根拠に無秩序な開発が許されるというものではありません。



■ 自然環境評価書（総合評価編）作成の流れ

*4 植生：ある場所に生育している植物の集団のこと。大まかには、草原、森林など。学術的にはコナラ群落、スタジイ群落などがある。この様々なタイプの植物群落の分布を地図上に示したものを植生図という。

*5 水系：流水の系統。ひとつの川を中心とし、それにつながる支流、沼、湖などを含めたまとまりをいう。

3.2 評価の軸

【自然】

いまある自然の現況を、「場」、「緑の質」、「生物」の3つの軸を用いてとらえ、これらの個別評価を統合して評価しました。

- 場** : 地形や緑の連続性など、地域の地理的条件や自然の重要性を評価しました。広域的な視点からみて重要な緑のまとまりを把握できます。
- 緑の質** : 植生と水辺の状況からみた、生物の「生息場所」としての質を評価しました。生物が生息できる環境が、どの程度豊かであるのかを把握できます。
- 生物** : 指標種の分布からみた、生息する生物の豊かさを評価しました。どの程度多くの生物が生息しているのかを把握できます。

【人とのかかわり】

地域の自然を守り、維持してきた人びとの暮らしとのかかわりがどの程度残されているのかを、「景観」、「人とのふれあい」、「人文」の3つの軸を用いてとらえ、これらの個別評価を統合して評価しました。

- 景観** : 樹林、農地、集落など里山らしい景観を構成する要素の豊かさを評価しました。人が、自然に働きかけながら暮らすことによって形成された景色が、どの程度純粋に残されているのかを把握することができます。
- 人とのふれあい** : 人と自然とのふれあいの場としての価値を評価しました。散策路や自然体験フィールド、自然観察場所などの人とのふれあいの場が、どれだけ多くあるのかを把握することができます。
- 人文** : 生活、文化面からの価値や、学術的な価値を評価しました。人が自然とかかわりながら暮らしてきた証となる史跡や道祖神などの人文資源が、どれだけ多く残されているのかを把握することができます。



景観
遠藤原から北西方向を望む
2005年9月17日撮影



人とのふれあい
自然観察場所
2005年6月5日撮影



人文
熊野神社
2005年7月21日撮影

□-----□

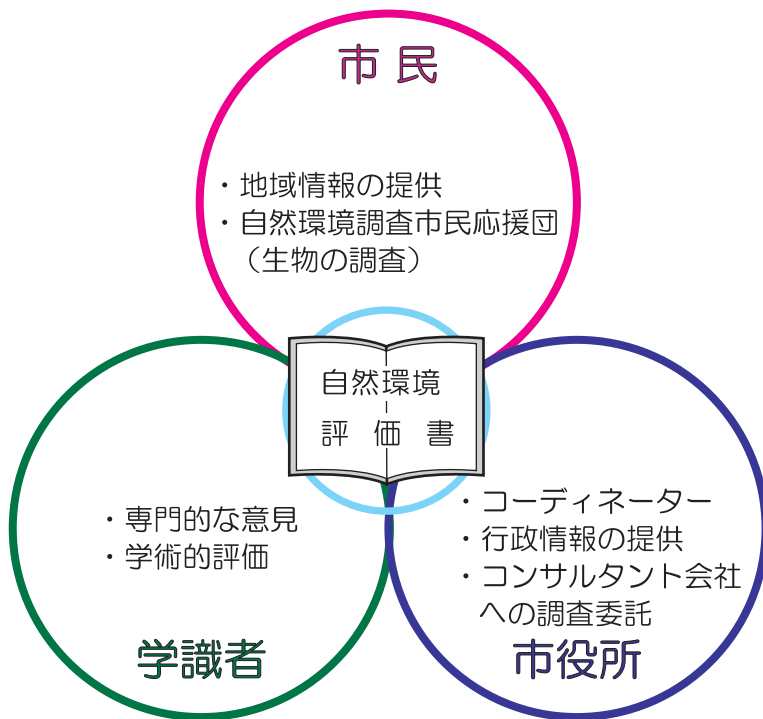
- *6 指標種：一定の環境条件下で生息、生育するため、その生物の存在が環境条件を知る手掛りとなる種
- *7 景観要素：風景を構成する山や林、畑、市街地などの構成材料のことをいう。
- *8 ランドマーク：その土地の目印や象徴になるような山、地形、建造物などのことをいう。

3.3 評価に携わった人びと

自然環境評価には、評価手法の検討、情報収集、現地調査、評価、とりまとめという作業の中で、様々な人びとに携わっていただきました。

評価手法の検討と実際の評価作業にあたっては、学識者と西部丘陵地域に詳しい市民からなる検討会で、協議しながら進めました。この結果、精度の高い自然情報に基づいて地域の自然に適した評価手法を選定することができました。

平成16年度の現地調査にあたっては、生物に詳しい市民ボランティアからなる「自然環境調査市民応援団」に御協力をいただきました。また、平塚市博物館が中心となって行われたタンポポ調査や過去の生物の調査の結果も利用させていただきました。



■自然環境評価書作成に携わった人びと

市民、学識者、市役所がそれぞれの役割を分担しました。



検討会の様子（2005年）

評価書作成のための検討会を開き、意見や情報の交換を行いました。



野外での生物の調査

自然環境調査市民応援団を中心に、みんなで手分けして調査を行いました。



検討会の様子（2004年）

評価書作成のための検討会を開き、意見や情報の交換を行いました。

市民による環境調査のサポート

自然環境評価書作成にあたっては、生物に詳しい市民ボランティアからなる「自然環境調査市民応援団」が結成され、調査が行われました。調査の結果は、昨年度発行した「生物編」にまとめました。今回の「総合評価編」では、生物評価編の結果もあわせ、地域の評価を行いました。

自然環境調査市民応援団による調査は、このようなマニュアルに基づいて記録していただきました。

土屋吉沢自然環境調査応援団

ホテル班マニュアル 2004

★調査の目的
土屋吉沢地区では、数ヶ所でホテルの発生が続いていますが、近年個体数の減少傾向にあります。また、ゲンジボタルについては、詳細的な調査が行われてきています。そこで、今年度はゲンジボタル生可能な環境について生態の各種

★調査の内容
①土屋吉沢地区でA～Lの12ヶ所、1ヶ所はヘイケボタルの発生
②下記の表に示したように、各種

③現地調査は下記の要領で行う。
・調査時間 午後8時～9時の間
・雨天、発生
・発生

集計用紙
調査した区画
調査日 9月16日

1. オニヤンマ
2. ハグロトンボ
3. シマメンゴ
4. ゴイシジミ
5. ゴマダラチョウ
6. クロカナン
7. トビナナフシ
8. タマムシ
9. ハシミョウ
10. ジャコウアサギ(メス)

土屋吉沢自然環境調査応援団 さえずり調査野帳 2004

区画番号 25 調査日 2004. 5. 2 天気 <もり>

1枚目/2 調査者

種類	場所 時間 主な環境	定点A (6:15~6:35)	定点B (7:35~8:15)	移動中 (6:35~7:35)
1 ツバメ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
2 ヒヨドリ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
3 ウグイス		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
4 アオサギ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
5 アオゲラ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
6 ハシボソガラス		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
7 ヤマガラ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
8 ヒバリ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
9 メジロ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
10 シメ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
11 エゾムシクシ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
12 キジバト		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
13 コゲラ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
14 ハシトガラス		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
15 スズメ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
16 ガビチョウ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
17 カワウ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
18 キビタキ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
19 コジュケイ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
20 ハフセキシ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B

土屋吉沢自然環境調査応援団 さえずり調査野帳 2004

区画番号 25 調査日 2004. 5. 2 天気 < >

2枚目/2 調査者

種類	場所 時間 主な環境	定点A (6:15~6:35)	定点B (7:35~8:15)	移動中 (6:35~7:35)
1 シジュウカラ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
2 オオタカ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
3 ホオジロ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
4 ハヤブサ		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
5 カラビト		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
6		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
7		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
8		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
9		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
10		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
11		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
12		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
13		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
14		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
15		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
16		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
17		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
18		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
19		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B
20		S・C・W・B	S・C・W・B	S・C・W・B

ふるさと土屋

土屋小学校のPTAの呼びかけによって、土屋地区の公式ホームページである「ふるさと土屋」が開設されました。ホームページは地元の神奈川大学が、地域研究、地域貢献の一環として制作し、地区の有志が一体となって運営にあたっています。(2006年3月現在)

内容は、土屋地区で行われている行事や情報などが紹介されているほか、地元の人たちや学生が調査した、地区の見どころや歴史などがわかりやすくまとめられており、地元にも密着したホームページとなっています。

(<http://www.scn-net.ne.jp/~tsuchiya/about.html>)